

神戸市公共交通空白地有償運送運営協議会

【開催日時】 令和2年2月6日（木）14:00～15:00

【開催場所】 三宮国際ビル 7階 701大会議室

【出席者】 委員14名

【議事概要（主な意見交換の内容）】

■運行概要について

●委員

1日当たりの利用人数が30年度から31年度で大きく伸びています。この要因として考えられること、また収支率はどれくらいか、この2点教えてください。

●事務局

帰宅支援便で、30年度366人が、31年度1,973人になっています。これは、路線バスに乗って淡河町まで帰ってきた方を自宅近くのバス停まで送るという運行で、最終便の時間が遅くなったこともあって、こちらを利用する方が増えています。また、グラウンドゴルフ便で、30年度383人が、31年度889人になっています。これは、グラウンドゴルフのイベントに参加される方が増えたということで、この2つが要因です。収支率は、おおむね40%から50%の間くらいになります。

■申請内容について

●委員

前回8名で運行されていて、今回5名になるようですが、運行ルート・距離・時間、全て変わってない中で、運転される方の負担が増えるような検討もされているかと思いますが、その辺りのことを聞かせていただけますか。

●申請者

前回8名で登録した中には高齢の方もいて、この2年間、実際に運転することが無かった方もいて、ほぼ5名体制で運行していました。今回も同じく5名で十分できるのではということで、5名の方に御協力いただくことになっています。

●会長

今回登録の5名の方ですが、講習を受けられた証明書を見ると、3名の方がまだこの12月に講習を受けられたばかりです。3名の方はまだ始めたばかりという状態ですが、残りの2名の方で実質的にその前は動かしていたということでしょうか。

●申請者

以前から大体5名で運行していた中で、3名の方のお仕事が忙しくなり、これを機に切り替えようということになり、新たに3名の方に講習を受けていただきました。その方々に順次引き継ぎをしているところで、今は以前の5名で運行しており、今回の申請が通れば、もともとの2名に新たな3名を加えて運行していきたいと考えています。

●会長

運転者については、協議会にかけなくても追加は自由だと思いますので、状況に応じて、新しい方を入れていただいても良いと思います。

●委員

運行管理の代表責任者が運転しているときは、必ず代行者が運行管理、立ち合いをしているかどうか、結局無人になって、運転手だけで出発するということがあり得るのかわかりたいです。それと、アルコールチェックをきちんとされているのかわかりたいです。

●申請者

どうしても私が事務所を出ざるを得ない時は、必ず運行管理の代行者に連絡して、事務所に常駐していただいています。点呼等の確認につきましても、朝の連絡事項を含めて実施し、アルコールチェックもアルコールチェッカーで必ず毎回しています。

●会長

車両2台で運行されていて、運行管理責任者・代行者とも運転者になっています。運行管理責任者・代行者以外の方の都合が悪くて、2人とも運転に出ないといけない事態になり、運行管理責任者・代行者どちらもいない、運行管理を行う者がいなくなってしまうという状態になる心配はないでしょうか。

●申請者

遅くとも前日までに御予約いただくので、自分を含めてドライバーの調整がつかないということは今までありませんでした。もし運行管理の責任者が動けない、またその代行者もどうしても家庭の事情や体調不良で運行不可の場合は、御予約は受けません。

●委員

他のところでも、なかなかこの自家用有償運送というのは聞かないですが、住民が喜ばれるという点では良いと思います。この2年間では、大きい事故はありましたか。

●申請者

この2年間で、淡河町内の住民を乗せる業務中はもちろんのこと、プライベートでも、どのドライバーも事故はありませんでした。安全・安心、これは第一に徹底しています。

●会長

通常、更新時には、事故、それから苦情の有無というのが1つのポイントになると思います。苦情についても特に無かったということでしょうか。

●申請者・事務局

特に苦情ありません。

●委員

帰宅支援便がこの1年で相当増えてきています。実際どのような運営をしているのかわかりたいのですが、多分、予約を受けてバスから乗り継ぐ方が多いと思われます。待ち合わせをするスペースも必要ですが、どの辺りで待機をされているのでしょうか。また、乗車する方も1便当たり6名くらいになると思われますが、今の車両で合ってい

るのでしょうか。

●申請者

今年度に入って、高校生の帰宅支援便が多くなりました。こちらについては、神姫バスさんの車庫に、路線バスが着く少し前に入らせていただいで、そこで乗降させていただいています。極力安全な場所で乗降できるように、神姫バスさんの御理解、御協力をいただいでいます。

また、1回で乗り切らないということについては、淡河に到着する神姫バスに大体1時間の差があり、まず19時前後に帰って来る方を一旦送り、その後、20時くらいに帰って来る方を送ります。大体各便については2、3名ずつで、1回で送れています。

●委員

運転手に対するお礼ですが、これは全くのボランティアではないと思いますが、賃金に相当する分は具体的にどういう形で支払っているのですか。

●申請者

謝礼という形で、概ね時給1,000円くらいでお願いさせていただいています。何も予約が無いという場合でしたら、謝礼は発生しません。実際に動いていただいたことに対する謝礼という形でお支払いしている状況です。

●委員

淡河町内で買い物をしようと思うと、可能な場所が少ないと思いますので、岡場に行きたいとなるとと思いますが、実際はどのような交通行動になっているのでしょうか。

●申請者

高齢の方を乗せると、車内の会話で、淡河町内で買い物できたらとおっしゃっているので、恐らくそのようなニーズはあると思います。現時点では承認されたルートを運行するというので、そのような対応は考えてないということで御理解いただいでいます。

●委員

路線バスでは平成20年から免許返納制度に応じまして、バスに乗るときには半額で御乗車いただいでいます。最初のうちは非常に利用者が少なかったのですが、ここ1、2年で急激にその活用をされているお客様が増えてきております。

同様に、この淡河町ゾーンバスでも、免許返納者の利用状況とか、近隣の方で免許を返納するとか、そういうお話がありましたら、教えていただきたいと思います。

●申請者

淡河町は農村地域でありますので、農業従事者が多数います。ほぼみなさん、いわゆる軽トラックと呼ばれるもので農作業をされているのですが、やはり昨今の自動車事故などを見て、「やっぱり返納したほうがいいのかな」と車内の会話でも出ますし、実際に返納されたという方も数名お聞きしています。「免許返納したから、このゾーンバス、ちゃんと診療所まで毎回頼むね」ということで、励ましの言葉もいただいでいます。

●委員

三田市の自治会の方と話をしたのですが、その方がバスにどれだけ乗っているか調べようと思って乗られたら、普段車に乗られている方が乗っていました。「どうしたの」と聞くと、「主人が免許返納しようと思っているので、バスに乗る練習をしています」という話がありました。そういった形で免許返納の方が、本人だけではなく、家族の方も輸送されていきましたので、路線バスで運行できない交通空白地については、それを補完するような地域団体が主体となる交通モードが非常に大事になってくると思いますので、今後ともご活躍ください。

●委員

運行の収支に関して、どこの地域でも、やってみたけれど結局赤字で運営できないということも聞いています。この2年間で、収支に関してはどうでしょうか。

●事務局

先程、収支率は4割から5割とお話ししましたが、赤字部分は神戸市から補助をしています。収入が4割だと6割分を神戸市が補助という形です。田園地域に対する補助ということで、コミュニティバスに対して補助制度があり、上限75%の補助をしています。

●会長

今までの協議いただいたところでは、色々御質問はいただきましたが、更新登録に対して、特に否定的な御意見は何も無かったと思います。当運営協議会として、この申請内容を踏まえて、今回申し出のありました淡河町地域振興推進協議会が淡河町ゾーンバスの更新登録を申請するに当たり、協議が整ったということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

●委員全員

(異議無し)

●会長

それでは、これで協議は整ったとしたいと思います。

■会議の非公開について

●会長

当会議を非公開にするに当たり、委員から御意見をいただいておりますので御紹介いたします。「個人情報の内容は、運転手の名前、運転経歴などが主なので、その部分を消しても審議に影響がないので、そのように処置して公開すべきである。今後、公共交通空白地有償運送協議会の内容が重要視される可能性があるので、国民の知る権利の立場から公開すべきである」と、こういう御意見をいただいております。

●委員

国交省は、公共交通空白地域の協議会の自家用運送について、今度は観光客も対象にするということで拡大していく予定にしています。今後、神戸市だけではなくて、全国

的に公共交通空白地域の協議会は重要視されるし、注目されるのではと思います。

そのときに非公開だと、賛成の立場、反対の立場が具体的にどういう形で動いているのかわからないと思います。名前や免許証はここに出さなくても協議できると思います。必要ない個人情報はできるだけ隠して協議したほうがいいのではと思い提案しました。

●事務局

今回議論いただいた内容で、個人情報に係るところは伏せて、それ以外のところで、こういった御意見や御質問があったということと、そのやりとりについては議事録を作り、公開させていただく予定です。また、資料につきましても、申請書自体は公開しないのですが、それ以外で公開可能な部分については公開すると考えています。

●会長

私、福祉有償運送では、神戸市含め4地区出ていますが、福祉有償運送運営協議会では会員について非常に細かい個人情報が出てきます。以前ある地区で、個人情報のところを全部黒塗りで出してこられたのですが、あまりに真っ黒で、実質的に協議できないという感じだったのを覚えています。後で回収するということですし、その場ではわかるように出していただきたい。今は会員の方の名前が消されているということはあたりしますが、極端に黒塗りにされているのは、私の出るところではないかと思います。

運転手の方だけではなくて、資料4は個人情報の塊ではないかと思うのですが、余りにそういうところ、微妙なところを全部消してしまうと、協議を進めるのが非常に困難な形になってしまうのではないかなと、私自身は今までの経験からは思っています。

●委員

公開という単語の持つ広い意味があると思います。会長がおっしゃることは、確かにそうだと思いますし、個人情報をどこまで公開するかといたら、かなり制限があります。ただし、議題にのせる上で知っておかなければならないということもあり、それをどこまで公開するかは検討の余地があります。結果や議論のプロセスは公開することですので、どこまでを公開し、どこまでを非公開にするかというルールが一定してないこともあり、空中戦になっているようです。資料の公開、結果の公開、議論の公開など、色々な公開があると思います。現状の公開の考えを聞かせてください。

●事務局

今回の協議のやりとりの部分と、最終決まった結果と、資料としては資料4が申請書になりますので、公開は難しいですが、資料2、3の部分は公開できると思います。

●事務局

今のお話で、少し曖昧なところがありましたので、今回事前協議で非公開ということにしましたので、協議会については今後も非公開という形にさせていただきつつ、議論の結果と、資料の公開できる部分については、公開するということで対応いたします。

■自由議論

●委員

自家用有償運送や、自治会の中で運転手を募ってやっていくことは、間違いなく増えていくと思います。自家用運送では、需要が増えてきたら、だんだん働く人の労働条件がきつくなっていくと思います。私達はバス改善基準という法律に基づいて労働条件をその中におさめています、それが適用されませんから、そこは気を付けないといけません。恐らくこれだけではご飯を食べていけないので、他の仕事をされながらこの仕事をされるのであれば、なおさら、できるだけ働く人の負担が軽くなること。また安全と安心が崩れてしまったら、高齢者はどこを信用していいのかということもあります。私達も本来なら住民の足をしっかり守らないといけません、現実的にできない部分もありますので、応援すべきところはしたいですが、とにかく働く方の労働条件だけは守っていただきたいと切に思います。

●委員

免許の返納制度という形で、非常に社会的に関心が高い問題ということで、こういったゾーンバスは、これからますます必要性が高まってくると思います。

有馬警察でも、一昨年から昨年にかけて、免許返納率が高くなってきています。特に80歳以上の高齢者に関しては、免許返納率が高くなる傾向にあります。これもやはり、こういったバスが整備されてこそそのものと思いますので、こういった活動の御協力をお願いしまして、免許返納にも一役買っていただくという形でお願いできればと思います。

●会長

今回使われている車両はどちらも小さな車両で、路線によっては、もう少し大きな車両でも大丈夫ではないかと思えます。労働条件のお話もありましたが、小さいがために2台走らせているのを、1台で済ますことができる場面もあるのではないかと思います。その車を用意するのに、神戸市の補助等で支援することはできないでしょうか。

●事務局

今ある制度では、自家用有償運送の場合、運行経費に対する支援という形になっています。兵庫県では車両の補助制度があるので、神戸市も、どんな支援ができるか、考えていきたいと思えます。

●委員

淡河町地域振興推進協議会の規約を拝見したところ、大事なのはまちづくりに対する意識や要望を知る、課題を見据えた上での新しい淡河のまちづくりという、大事な仕事がかかっていると思えます。今回感心したことは、若い方がドライバーに名乗りを上げていることで、大事なことだと思えます。運行を通じて地域の方がどんな暮らしをしているか等についても吸い取って、地域振興に役立てるきっかけにしていいただければと思います。これから人口も減り、高齢化も進んでいく中、若い人たちがどうやって淡河を盛り上げていくかという大事なお話ではないかと思えます。